

2年生の皆さんは、3月23日に来年度の教科書を購入します。高等学校教育は「義務教育」ではありませんので、教科書代も無償ではなく、保護者の方から出していただいた大切なお金で購入することになりますね。先月の人権・同和教育に関するホームルーム活動で小・中学校の教科書無償化運動について学びましたので、「教科書を大切に使おう」とか、「進級してからもがんばって勉強しよう」、「勉強できる環境に感謝しよう」、そんな思いも聴こえてきそうです。

『部落差別の歴史と現実から学ぶ』～「教科書無償化運動」から学ぶ～

教科書無償化運動は、昭和36年（1961年）に高知県で始まりました。それまで差別により安定した仕事に就くことができず、子どもたちに教科書を買ってやれなかった母親たちが、権利意識に目覚め、「教科書を無償で配布してもらおう」という権利の実現のために団結した運動でした。

☆教科書無償化運動は、

- ①憲法第26条を根拠にした、権利の実現をめざした運動だった！
- ②「権利が実現するまで教科書を買わない」という、当時の社会常識への挑戦だった！
- ③被差別部落で差別されてきた人々を中心として、さまざまな立場の人が連帯・連携した画期的なたたかだった！
- ④国会でもとりあげられ、新たな法律の制定にいたった！
- ⑤子どもたちも、運動をとおして「正義」や「希望」を見いだしていった！

●教科書無償化運動から学ぶ

授業を通して皆さんに理解してもらいたかったのは、次のことです。

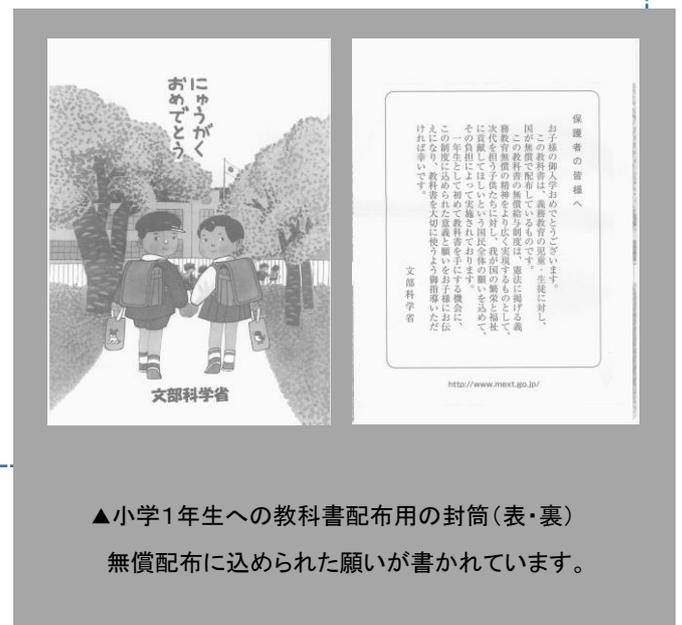
- (1) 権利を実現していくためには、権利について正しく理解し、実現のために行動していくことが大切であること
- (2) 権利を実現していくためには、多くの人々との団結やつながりが必要であること
- (3) 信念をもって正しい行動をすることが、多くの人の利益や社会全体の幸福につながる

皆さんからは、教科書無償化運動という歴史的な出来事から、私たち自身の生き方やあり方について考えたという感想が多く寄せられました。 (→裏面へ続く。)

●感想より

- 私は、小・中学校の教科書をあたりまえのように無償でもらっていました。だけど、今日の授業を通して、高知市長浜の母親たちのたたかいによって無償でもらうことができるようになったことを知りました。当時の人たちが差別に負けずに最後までたたかったからこそ、無償でもらえるようになったので、感謝したいです。
- 苦しい生活のなかで、諦めずに訴え続けるのはとても大変だったと思うから、今、自分が勉強できていることは当たり前じゃないということをちゃんと理解しないとイケないなと思いました。
- 今まで教科書無償が当たり前だと思っていたけれど、実はそうではなくて、教科書無償のために尽力した人たちがいたのだということを知りました。そしてそれは明治・大正あたりの話だろうと思ったけれど、実は昭和のことで、しかもほんの最近のことだったことに驚きました。尽力してくれた方々に感謝しないとイケないなと思いました。そして、自分の教科書をもっと大事にあつかっていきたいと思いました。
- 今までの授業では、被差別部落の人々への差別やいじめなどを取り上げていたけど、今日の授業では、色々な立場の人が団結し、協力していたということを知って、立場など関係なく人と人が関わっていくことのすばらしさを感じました。
- 今まで自分が勉強できていたのは、昔の人たちが「あきらかにおかしい」ことに立ち向かっていた結果なのだと知りました。今では勉強できることは当たり前で、その当たり前はすべての人に平等におとずれているけれど、それが無く、辛い思いをした人がいたことを忘れることがないようにしたいと思いました。
- 大きな問題にぶつかったときに、一人の意見では物事は動かないかもしれないけれど、おかしいと思ったことはそのままにせず行動に移していける力はとても大事だと思いました。差別をこれからも生まないために、今の時代に生まれた私たちがどんどん意見を言っていけたら、もっと暮らしやすくなると思いました。

今年度最後のLHRはいかがでしたか。3年生に進級してからも、皆さんの大切な権利を守るために学びを深めていきましょうね。春休み、どうか皆さんが心身ともに元気に過ごせますように。



▲小学1年生への教科書配布用の封筒(表・裏)
無償配布に込められた願いが書かれています。